

左京はあとふるプラン(左京区基本計画第2期) 総括票の概要

資料4

目標	取組分野	左京区の現況や主な取組内容	区民の実感	評価点	今後の課題
目標1 美しい自然のまちづくり	自然環境	<ul style="list-style-type: none"> 交付金団体等による自然体験イベントの開催 チマキサ再生プロジェクト等自然環境の保全の取組の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 北部山間地域だけでなく、市街地地域でも自然の豊かさを実感されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 左京の豊かな自然や文化を体験するイベント等の開催による区民の交流や自然保護・生物多様性について考える機会の増大 	<ul style="list-style-type: none"> 農林業従事者の減少により山林の維持管理が困難 台風等による倒木や土砂災害、獣害への対応
	まちの美化	<ul style="list-style-type: none"> 各地域での一斉清掃 交付金団体等による環境保護啓発や清掃活動の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 街並みが美しいと実感されている方が多い。 ゴミ出しルールや分別方法がわかりにくいという声が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 自治会やボランティアによる一斉清掃の実施やゴミ出しのルール順守、交付金団体等による清掃活動など、区民の自主的なまちの美化活動の取組が進められている。 	<ul style="list-style-type: none"> 転入者に対するごみの分別方法の周知や、急増する観光客・外国人に対するゴミ出し等のルールやマナーの周知・案内が必要
	歩きやすいまち	<ul style="list-style-type: none"> 学生向け自転車啓発「今出川通作戦」の実施等、自転車の安全利用の啓発 	<ul style="list-style-type: none"> 交通の便が良いという意見が、市街地地域では多いが、北部山間地域ではみられない。 自転車のマナーが悪いという声が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 行政と地域、大学等の協働による自転車の利用マナー・ルールの普及に向けた啓発が進められている。 	<ul style="list-style-type: none"> 自転車の交通マナーの更なる浸透 北部山間地域の交通利便性の向上
	自然と調和した都市基盤整備	<ul style="list-style-type: none"> 交付金団体による自然環境の保全や防災の取組 	<ul style="list-style-type: none"> 自然や歴史資源を生かした景観などを評価する人が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 都市基盤（道路、上下水道）の整備により、地域の生活基盤が強化された。 	<ul style="list-style-type: none"> 北部山間地域では地域活力・集落機能の低下に歯止めをかけることが必要であり、引き続き、北部地域の道路網の整備や維持管理を実施する必要がある。
	防災・消防	<ul style="list-style-type: none"> 各地域における防災訓練の実施や避難行動マニュアルの作成 交付金団体による防災ワークショップ等の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 防災意識が低い人が多いという意見がある。 土砂災害危険地域の改善策を求める声がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 自主防災会を中心に、各地域で防災訓練や避難行動マニュアルの整備が進められている。 	<ul style="list-style-type: none"> 台風等による停電や電話の不通、大規模な倒木による通行止め等の対策 区民の防災意識や知識の更なる醸成
目標2 歴史・文化・学問のまちづくり	歴史資源・文化財	<ul style="list-style-type: none"> 左京・地域ゆかりの文化発信・継承プロジェクトによる左京の伝統文化の保存・継承・発信 交付金団体による歴史資源を生かした地域づくり活動 	<ul style="list-style-type: none"> 世界遺産も含め、豊かな歴史資源が多いことを評価する人が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 区民が自主的に地域の歴史を学び保存する活動や、小学校において地域の昔の民具を保管する取組などが広がっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 左京区の宝ともいえる歴史資源・文化遺産についての学びや活用の機会の更なる促進
	伝統行事	<ul style="list-style-type: none"> 各地域の住民による伝統行事の実施、継承 京都府立大学との共同研究による左京の伝統文化の保存・継承のための調査の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 多様な伝統行事があることを評価する人が多い。 伝統行事の継承のための仕組みづくりや、次代を担う子どもたちへの啓発等を求める声が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 左京区ならではの豊かな伝統文化が区民の手によって継承されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 区内各地域において、様々な伝統行事が区民によって継承されている中、少子高齢化の進展によって担い手が減少している。
	観光	<ul style="list-style-type: none"> 岡崎地域活性化推進事業 交付金団体による左京の新たな魅力の発掘 	<ul style="list-style-type: none"> 観光名所となる区域が多くあることを左京の魅力と感じている人が多い。 観光客より住民の生活を守ることが大切という意見も多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 外国人観光客も含め、左京区の各エリアに多くの観光客が訪れている。 北部山間地域では農家民宿の開業により、体験型の観光が進んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 観光客の増加に伴う民泊施設の増加など、生活環境の悪化への懸念 岡崎エリア周辺での交通環境の悪化
	文化・芸術	<ul style="list-style-type: none"> 各文化施設等での文化・芸術イベントの実施 交付金団体による音楽や芸術のイベントの実施 	<ul style="list-style-type: none"> 左京の伝統的な歴史・文化と、芸術系の大学や劇団等による新たな芸術等、多様な文化・芸術活動があることを評価する人が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 文化施設（動物園、京都会馆、京都市美術館、京都府資料館）のリニューアルが進んでいる。 区内の大学、文化施設や区民による主体的な文化芸術活動が広がっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 文化・芸術を学び、関わる機会の創出
	大学のまち	<ul style="list-style-type: none"> 大学や学生の左京まちづくり活動支援交付金の活用による様々な取組の実施 京都精華大学との包括連携協定の締結 	<ul style="list-style-type: none"> 大学や学生が多く、活気があることを評価する人が多い。 自転車マナーや交通ルールの遵守などを求める声が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 大学の地域と連携した研究・教育活動や、左京区まちづくり活動支援交付金制度の活用等の実施を通して、大学の研究成果の地域への還元、大学と地域との連携が進んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の課題解決への大学の知見の活用や大学の地域をフィールドとした研究の更なる促進
目標3 ひとにやさしいぬくもりのまちづくり	子ども	<ul style="list-style-type: none"> 交付金団体による子育て世代や子どもの居場所づくりや地域でのつながりを促進する活動の実施 左京 ほっこりベビーフェスタ等、0歳児とその親を対象とした相談事業や交流の場づくり 	<ul style="list-style-type: none"> 自然の豊かさや大学の多さなどから、子育てがしやすい環境であるという方が多い。 一方で、子育て世代への支援が少ないという声も多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 各地域における朝の見守り活動や地蔵盆の取組など、子どもを地域で見守り、育てる活動が定着しているとともに、区民による自主的な子育て支援活動が広がっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 核家族化や共働き世帯、ひとり親の増加、人間関係の希薄化等により子育て世代の負担感・不安感が増し、児童虐待等の問題が顕在化している。
	高齢者	<ul style="list-style-type: none"> 「左京・からだの学校」による退職後の高齢者の健康づくりと仲間づくり 行政や交付金団体による認知症の方やその家族を対象とした居場所づくり 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者が元気という意見が多い。 地域で役員を務める方の高齢化を懸念する意見もある。 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者による地域での見守り活動や伝統行事等を通じて世代間交流、自治会活動や自主的な活動への参加等、高齢者が地域でいきいきと活躍する状況が生まれている。 	<ul style="list-style-type: none"> 核家族化等による家族の介護疲れ、老老介護、独居の高齢者の増加 独居の認知症高齢者の把握や各種サポート（保護時の身柄届け等）の充実
	障害のあるひと	<ul style="list-style-type: none"> 区役所での授産施設の作品の販売コーナーの設置 	<ul style="list-style-type: none"> 学校の授業や、行政・病院・福祉・介護関係者の職員研修などでの啓発により、障害についての理解を深めてほしいという意見があった。 	<ul style="list-style-type: none"> 社会福祉協議会や区内の福祉施設、区役所が連携して、障害のある人がすこやかに地域で暮らせるよう交流が進んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域での障害者の居場所づくりや発災時の支援 精神障害者や発達障害の方等への支援
	市民参加・生活安全	<ul style="list-style-type: none"> 地域団体や交付金団体による地域のまちづくり活動 4箇言語による左京区防犯・防火ハンドブックの作成や地域の見守り活動への支援 	<ul style="list-style-type: none"> 治安がよい、まちづくり活動に熱心な方が多いという意見が多い。 自治会の加入促進や、自治会活動へのサポートを求める声もあった。 	<ul style="list-style-type: none"> 各学区において、住民、学校、警察、消防が協働して安心・安全の取組が行われている。 まちづくり活動支援交付金制度などを通して、まちのために考え、行動する区民が増加している。 	<ul style="list-style-type: none"> 支援事業に関する情報を発信し、より多くの学区・地域で制度を利用してもらうことが必要 自治会等の活動の支援
	交流・共生	<ul style="list-style-type: none"> 交付金団体による地域間や世代間、外国人留学生などとの交流イベントの実施 入権月間の啓発 	<ul style="list-style-type: none"> 古くからの住民と新しい住民、学生・店主等との交流や、外国人労働者の方との良好な関係を築くための共生社会に対する意識啓発を期待するという意見があった。 	<ul style="list-style-type: none"> 左京朝カフェや区民の主体的な活動、区民ふれあい事業の実施等により、地域間、世代間、多文化の交流が進められている。 	<ul style="list-style-type: none"> 外国籍市民が増加する中で、ごみ出しルールや騒音などが問題になっている。

目標1 美しい自然のまちづくり

取組分野1 自然環境

I 「左京はあとふるプラン」に掲げた取組項目

左京区は、美しく豊かな自然に恵まれた山紫水明の地であり、自然を愛で、楽しむ文化やところが区民に脈々と受け継がれている一方、北部地域では高齢化や農林業の担い手不足等が課題となっています。今後も地元の食材を使う食文化を広めるなど、豊かな自然を生かして北部地域と中南部地域の交流を進め、様々な生物が共存する「生物多様性」を保全していくことが求められています。

取組項目	区民一人ひとりができること	区民と行政・事業者・大学等が協働ですること	行政（区役所・市役所）がすること
	「自然を愛でるこころ」を大切に する。	山を育てて、自然の資源を生かす。	自然を生かした区内の交流を進める。
	・「自然を愛でるこころ」の継承 ・エコライフの実践	・山林の維持管理や休耕田等の活用 ・自然と食の文化の継承	・農林業の振興 ・鳥獣被害や病虫害の対策 ・北部と中南部の交流の促進 ・左京の自然の魅力の発信

II 計画期間中の取組状況

1 取組結果

(1) 区民と行政・事業者・大学等が協働ですること

OH27年度中間点検時の地域代表者へのアンケート結果 OH30市協会長会議での各学区での取組状況評価

- ・山林の維持管理や休耕田等を活用している
…14.2%
- ・自然と食の文化の継承の取組を進めている
…14.2%

北部	中部北	中部南	南部	区平均
2.2	2.4	2.5	4	2.8

○まちづくり活動支援交付金事業(一例)

- 「はたけ」から「たべる・つむぐ」丸ごと体験事業（キッズファームin大原）(H27～29)
大原を拠点に子育て世代と地域をつなぎ、「衣」と「食」を自給する体験プログラムを実施。
- コパノミツバツツジのトンネルを守ろうプロジェクト（京都宝の森をつくる会）(H28～29)
生物多様性の豊かな森の再生を目指し、宝が池の森において、防鹿柵の設置や啓発活動を実施。
- 花背ワンダーランド（花背ワンダーランド実行委員会）(H30～R1)
山村都市交流の森でイベント開催（H30.8.25参加者1,200名）。花背地域と都市居住者の交流を進めた。

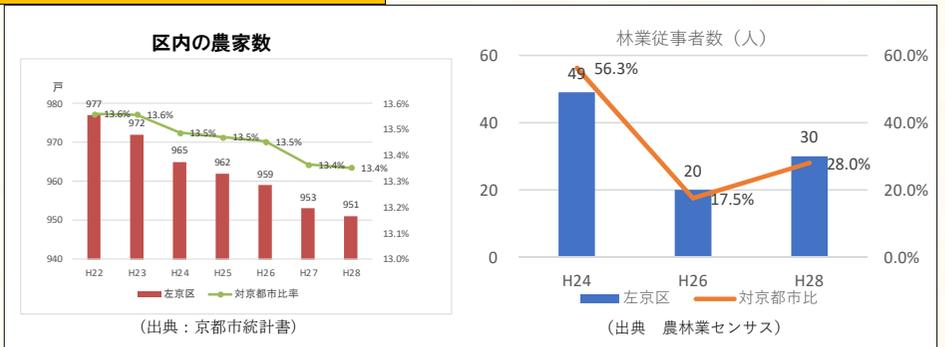
(2) 行政（区役所・市役所）がすること（一例）

- 鳥獣被害対策（区役所・出張所、産業観光局、文化市民局）
- チマキザサ再生プロジェクト（区役所、産業観光局）
- 食文化推進事業（区役所）
- 「左京区農産物共進会」開催（産業観光局）
- 「ふるさと森都市フェスティバル」開催（産業観光局）
- 「農」を活かした北部山間地域魅力創造プロジェクト（産業観光局、区役所）

<関連する分野別計画・指針等>

- 京都市生物多様性プラン（平成26年度～令和2年度）（環境政策局）
- 京都市農林行政基本方針（平成22年度～令和元年度）（産業観光局）

2 客観評価（関連指標）



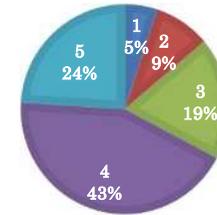
3 区民の実感

(1)「左京はあとふるプラン」区民アンケート結果 (H31.1～3実施)

○区民が自然を大切に、豊かな自然を生かした農林業や食文化が守り伝えられるとともに、様々な生物が共存している。

（そう思う：5～
そう思わない：1の
5段階評価）

3.7
(平均値)



(2)「左京の魅力」アンケート結果 (H30.5～7実施)

○「左京の魅力」として、「自然・緑が多い」ことを挙げた区民の数

245 / 466人 (52.6%)

(3)区民や団体等からの御意見

○左京区のまちについて、良いと思うこと、魅力とと思うこと

- ・山や川などの美しい景色。静かで空気も綺麗。高齢者も住みやすい場所（70代男性）
- ・日本一高い峰定寺の三本杉などの自然が残っている。（70代女性）
- ・国定公園になっている（70代男性）
- ・自然が多く、散歩するところがたくさんある。（多数の方）

・緑が多く、自然が身近にある。
(まちづくり活動支援交付金団体)

○左京のまちについて、課題だと思うこと、より良くしていきたいと思うこと

- ・北部地域や山間部と市街地が物理的に離れており、催しでの交流にとどまっているので、大学機関などのプロジェクト化、海外からの有識者の招聘など、行政としてギミックを作り出しぜひ交流を盛んにしていただきたい。
(まちづくり活動支援交付金団体)

III 「左京はあとふるプラン」計画期間の総括

(1)評価点	(2)今後の課題
<ul style="list-style-type: none"> ・行政と区民の協働事業による左京の豊かな自然や文化を体験するイベントやプログラム等の開催により、中南部地域の住民と北部地域の住民が交流し、北部の自然や里山文化に触れたり、自然保護や生物多様性について考える機会が増えた。 ・北部山間地域だけでなく、市街地でも自然の豊かさを実感される方が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化により農林業に携わる人が減少し、住民による山林の維持管理が困難な地域が増えている。 ・昨今の台風・風雨による倒木や土砂災害等により、自然環境が住民生活にとって負担や脅威であると思われることが多かった。 ・シカやサル等野生鳥獣による生活環境・農林被害に対する継続的な対策が必要である。

目標1 美しい自然のまちづくり

取組分野2 まちの美化

I 「左京はあとふるプラン」に掲げた取組項目

左京区には市街地の中にも緑が豊かにあり、四季の移り変わりを感じさせてくれますが、花や紅葉が地面に散った後の清掃が地域の大きな課題となっています。また、観光客が多く訪れる地域で散乱するごみは地域で清掃しなければならない状況にあり、岡崎公園や宝ヶ池などが美化推進強化区域として指定されています。また、左京区は清らかな水に恵まれており、これからも美しい河川を守ることが大切です。

取組項目	区民一人ひとりができること	区民と行政・事業者・大学等が協働ですること	行政（区役所・市役所）がすること
	美しいまちを目指す。 ・門掃きや打ち水など、まちを美しくすることを心がける。 ・ごみを出すルールを守り、環境意識を高めてごみを減らす。	地域での一斉清掃などの取組を行う。 ・地域内の一斉清掃を行うなど、まちや山、川を美しくする。 ・ごみを出し方のルールを徹底し、不法投棄をなくす。	ごみの減量や環境保全に関する啓発を強化する。 ・まちの美化やごみの減量、環境保全に関する広報を充実させる。 ・河川等への不法投棄を防ぐ取組を進める。

II 計画期間中の取組状況

1 取組結果

(1) 区民と行政・事業者・大学等が協働ですること

OH27年度中間点検時の地域代表者へのアンケート結果 OH30市協会長会議での各学区での取組状況評価

- ・地域内の一斉清掃など、まちや山、川を美しくする取組をしている …58.1%
- ・ごみを出し方のルールを徹底し、不法投棄をなくす取組をしている …35.1%

北部	中部北	中部南	南部	区平均
4.5	3	2.7	3.5	3.4

Oまちづくり活動支援交付金事業(一例)

- ・岩倉川にホテルが多数生息できる環境を整備する(岩倉川を守る会) (H28)
岩倉川の清掃活動や環境調査、美化を訴える看板の設置
- ・おやこまつり2017と宝ヶ池の森のゴミ拾い活動(森のようちえん どんこ園) (H29)
親子による宝ヶ池の森のゴミ拾い活動の実施
- ・地域が活きる接点づくり(一乗寺DOP実行委員会) (H28~H30)
一乗寺・修学院地域の清掃活動に定期的に参加

(2) 行政(区役所・市役所)がすること(一例)

- DO YOU KYOTO? デーの実施(区役所、環境政策局)
- 一斉清掃への用具の貸出し、回収ごみの収集(環境政策局)

<関連する分野別計画、指針等>

- 新・京都市ごみ半減プラン-京都市循環型社会推進基本計画-(平成23年度~令和2年度)(環境政策局)
- 第8期京都市分別収集計画(平成29年度~令和3年度)(環境政策局)

2 客観評価(関連指標)



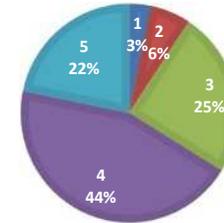
3 区民の実感

(1)「左京はあとふるプラン」区民アンケート結果(H31.1~3実施)

○区民がまちを美しくすることを心がけ、地域などで美化活動が行われているとともに、美しいまちや河川が守られている。

(そう思う: 5~
そう思わない: 1の
5段階評価)

3.8
(平均値)



(2)「左京の魅力」アンケート結果(H30.5~7実施)

○左京の魅力として、「住環境がよい」ことを挙げた区民の数

44/466人(9.4%)

(3)区民や団体等からの御意見

○左京区のまちについて、良いと思うこと、魅力と思うこと

- ・スーパーでビニール袋が有料で、環境のことについて対策しているまち。(20歳未満女性)
- ・街並みがきれい。(多数の方)

○左京のまちについて、課題だと思うこと、より良くなってほしいと思うこと

- ・ゴミの捨て方がとにかく分かりづらいという声をよく聞き、私もそう思います。(40代女性)
- ・北部地域の休農地、山林等に廃材や廃土等の置場が目立つ。行政、地域が一体となって改善の取組が急務。(70代男性)

III 「左京はあとふるプラン」計画期間の総括

評価点	今後の課題
<ul style="list-style-type: none"> ・各地域において、自治会や自主的なボランティアによる一斉清掃の実施やゴミ出しのルール順守、まちづくり活動支援交付金団体等による清掃活動など、まちの美化活動の取組が進められており、美しい街並みを評価する声が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・転入者に対するごみの分別方法の周知 ・急増する観光客や外国人に対するゴミ出し等のルールやマナーの周知及び宿泊所に対する注意喚起、ゴミ置き場への外国語表記の案内板設置等の対策が必要。

目標1 美しい自然のまちづくり

取組分野3 歩きやすいまち

I 「左京はあとふるプラン」に掲げた取組項目

左京区は、交通利便性の更なる向上を図る必要があります。また、大学のまちであることから、学生が自転車に乗ることも多く、自転車利用環境の整備や自転車の利用マナー・ルール の普及が課題です。区域の広い左京区では、地域の特徴も多彩で、歩いて回ることにより身近に感じることができるため、安心して歩くことのできるまちづくりが求められています。

取組項目	区民一人ひとりができること	区民と行政・事業者・大学等が協働ですること	行政（区役所・市役所）がすること
	自転車等のマナーの向上に努める。 ・自転車利用時は、歩行者が安心して快適に歩くことができるようにする。 ・自動車等の違法駐車をやめる。 ・歩道に看板、商品や物を置かない。 ・人と環境にやさしい公共交通の利用に努める。	誰もが歩きやすい道を確保する。 ・自転車の利用マナー・ルール の普及に向けた啓発を進める。 ・利用しやすい交通体系を検討する。	歩きやすいまちづくりを進める。 ・電線類の地中化、交通バリアフリーの推進、放置自転車の撤去、駐輪場の整備、見やすい案内標識の整備などを通して、歩きやすいまちづくりを進める。

II 計画期間中の取組状況

1 取組結果

(1) 区民と行政・事業者・大学等が協働ですること

OH27年度中間点検時の地域代表者へのアンケート結果 OH30市協会会長会議での各学区での取組状況評価

- ・自転車の利用マナー・ルール の普及に向けた啓発を行っている …37.2%
- ・公共交通の利用促進など誰もが利用しやすい交通体系の維持・構築に取り組んでいる …8.8%

北部	中部北	中部南	南部	区平均
3.4	2.1	2.7	3.5	2.9

○まちづくり活動支援交付金事業(一例)

—

(2) 行政（区役所・市役所）がすること（一例）

- 学生向け自転車啓発「今出川通作戦」（区役所，行財政局）
- 自転車の安全利用の推進（区役所，建設局）
- 無電柱化事業（建設局）
- 松ヶ崎地区あんしん歩行エリア事業（建設局）

<関連する分野別計画，指針等>

- 「歩くまち・京都」総合交通戦略（平成21年度～）
- 「歩くまち・京都」交通4バリアフリー全体構想（平成2年度～令和2年度）
- 京都市駐車施設に関する基本計画（平成22年度～）
- 京都・新自転車計画（平成27年度～令和元年度）（以上都市計画局）

2 客観評価（関連指標）

○区内の駐輪場数及び収容台数

駐輪場数 18箇所

収容台数 6,658台

（平成31年3月現在ホームページ等で確認できたもの）



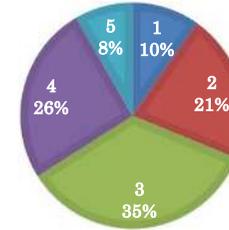
3 区民の実感

(1)「左京はあとふるプラン」区民アンケート結果 (H31.1~3実施)

○交通利便性が高く、自転車マナー・ルールが普及しており、安心してまちを歩くことができる。

（そう思う：5～
そう思わない：1の
5段階評価）

3.0
（平均値）



(2)「左京の魅力」アンケート結果 (H30.5~7実施)

○左京の魅力として、「交通が便利」であることを挙げた区民の数

58 / 466人(12.4%)

(3)区民や団体等からの御意見

○左京区のまちについて、良いと思うこと、魅力と思うこと

- ・散歩に適した道が多くある。（60代女性）
- ・普段の散歩にはもってこい。（70代女性）
- ・交通の便（バス，電車）が良くて行動しやすい。（60代女性）

○左京のまちについて、課題だと思うこと、より良くなってほしいと思うこと

- ・自転車やタクシーの運転が荒かったり、マナーが悪くて歩いていて怖い。（20歳未満女性）
- ・街の自転車撤去強化区域における駐輪スペースの確保。
- ・学生が多いが、道に広がって歩くなど住民の生活に支障をきたすことも多々ある。学生のマナーの問題だが、大学との話し合いなどで住民も学生も心地よく過ごせることが大事ではないかと思う。（以上 まちづくり活動支援交付金団体）

III 「左京はあとふるプラン」計画期間の総括

(1)評価点

- ・平成29年に「京都市自転車安心安全条例」が改正された中で、自転車の利用マナー・ルール の普及に向けた啓発が、行政，地域，大学により進められている。
- ・一部地域において、公共交通確保に向けた地域主体の検討が進められている。

(2)今後の課題

- ・自転車の交通マナーの更なる浸透
- ・交通利便性について、各交通機関により改善が図られる一方、人員不足により、やむを得ずバスの減便が行われた地域もあった。

目標1 美しい自然のまちづくり

取組分野4 自然と調和した都市基盤整備

I 「左京はあとふるプラン」に掲げた取組項目

左京区の北部地域では、人口減少により、集落としての機能を維持することが限界に近づきつつある集落も生じています。北部地域に来てもらい、暮らしてもらうためには、自然と結びついた文化などの魅力を伝えるとともに、自然との調和を図りつつ、都市基盤の整備を進めることが重要です。
一方、南部地域の方には、北部地域との交流を進めるとともに、身近な緑を大切に四季の移り変わりを感ずることも必要です。

取組項目	区民一人ひとりができること	区民と行政・事業者・大学等が協働ですること	行政（区役所・市役所）がすること
	自然資源を暮らしの中で使う。	まちの緑や景観を守る。	自然に配慮した都市基盤整備を進める。
	・左京区の自然に親しみ、資源を日々の生活や仕事の中に使う。 ・自然の資源を生かして地域間の交流や連携を深める。	・緑を豊かにし、自然と調和した美しい景観を守る。 ・若い世代が移り住めるよう、自然を守りながら北部地域の活性化を進める。	・北部地域の活性化や中南部地域との交流を促進するため、道路網の整備推進など、美しい自然に配慮しながら都市基盤整備を進める。

II 計画期間中の取組状況

1 取組結果

(1) 区民と行政・事業者・大学等が協働ですること

OH27年度中間点検時の地域代表者へのアンケート結果 OH30市協会長会議での各学区での取組状況評価

- ・緑を豊かにし、自然と調和した美しい景観を守る取組をしている …22.3%
- ・若い世代が移り住めるよう、自然を守りながら北部地域の活性化を進めている …12.8%

北部	中部北	中部南	南部	区平均
3.7	3	2.3	3.3	3.1

〇まちづくり活動支援交付金事業(一例)

- ・石積みと山作業を学び合う場づくり（森盛もぐもぐ）（H30）
市民の手で石垣や里山を維持する技術を学ぶほか、土砂災害を防ぐための植林を実施
- ・修学院地区比叡山林道整備・山林育成事業（一般社団法人 七町会）（H27）
自然環境保全と災害防止のため、林道の整備や山林の育成・間伐作業を実施
- ・自然エネルギーを活かす、魅力あるまちづくり（比叡の里ハッピーライフ研究室）（H27～28）
小水力発電を利用したライトアップ用の水車発電機、LED証明、灯籠の制作

(2) 行政（区役所・市役所）がすること（一例）

- 〇農業・農村多面的機能強化事業（産業観光局）
- 〇二ノ瀬トンネル開通（平成25年10月）
- 〇宝が池公園新景観創造事業（以上建設局）
- 〇北部山間地域における除雪及び凍結防止剤散布（建設局）
- 〇道路の森づくり事業（建設局）
- 〇大原地域の水道再整備及び公共下水道整備（平成27年）（上下水道局）

<関連する分野別計画、指針等>

- 〇京都市都市計画マスタープラン（平成24年度～令和7年度）
- 〇京都市三山森林景観保全・再生ガイドライン（平成23年度～）（以上都市計画局）
- 〇京都市緑の基本計画（平成22年度～令和7年度）
- 〇市街地緑化の在り方（平成29年度～令和7年度）（以上建設局）

2 客観評価（関連指標）

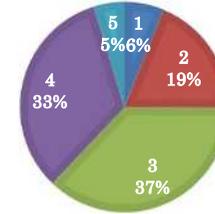
- 〇「京都岡崎の文化的景観」が国の「重要文化的景観」に選定（平成27年10月、市内初）

3 区民の実感

(1)「左京はあとふるプラン」区民アンケート結果（H31.1～3実施）

〇自然と調和した都市基盤（道路、水道、情報ネットワークなど）が整備されており、豊かな自然のある北部地域と南部地域との交流が進んでいる。

（そう思う：5～
そう思わない：1の
5段階評価）



3.1
（平均値）

(2)「左京の魅力」アンケート結果（H30.5～7実施）

〇左京の魅力として、「都会と田舎が近い」ことを挙げた区民の数

9 / 466人（1.9%）

(3)区民や団体等からの御意見

〇左京区のまちについて、良いと思うこと、魅力と思うこと
・自然と都会が共存している。（20代男性）
・歴史的建造物や文化施設が多く、それが周囲の景観と調和し、落ち着いた雰囲気を感じ出している。（60代男性、区外の方）
・身近な森林の整備とハイキングトレイルの整備（まちづくり活動支援交付金団体）

〇左京のまちについて、課題だと思うこと、より良くなってほしいと思うこと

・北部地域の休農地、山林等に廃材や廃土等の置場が目立つ。行政、地域が一体となって改善の取組が急務。（70代男性）

III 「左京はあとふるプラン」計画期間の総括

評価点	今後の課題
・都市基盤（道路、上下水道等）の整備により、地域の生活基盤が強化された。	・北部山間地域において、生活基盤を維持し、南部地域との交流を促進するため、引き続き、北部地域の都市基盤整備を進める必要がある。

目標1 美しい自然のまちづくり

取組分野5 防災・消防

I 「左京はあとふるプラン」に掲げた取組項目

自然災害等から暮らしを守ることは、まちづくりの中でも重要な課題の一つです。特に左京区は、花折断層が縦断し、山間部も多いために土砂崩れなどの自然災害の危険性も高くなっています。防災や安全といった課題は、まず、地域の安全を将来にわたりどのように確保していくのかを考えたいうえで、次代の子どもたちに対しどのような取組をするかを長期的な視点で考えることが求められています。

取組項目	区民一人ひとりができること	区民と行政・事業者・大学等が協働ですること	行政（区役所・市役所）がすること
	<p>自然災害等に対する防災意識を高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然災害や火災の被害を最小限にするため、日常的に地域全体の安全を一人ひとりが考え、防災訓練に積極的に参加する。 ・災害時に備え、水や食料などの非常用品を最低数日分用意する。 	<p>長期的な視点で防災に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域と行政が力を合わせ、防災や地域の安全について、長期的な視点に立って取組を進める。 	<p>災害に強いまちづくりを進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害に強いまちづくりを進めるため、区民と行政のネットワークの充実を図る。 ・災害に強い道路や橋等の整備を進める。

II 計画期間中の取組状況

1 取組結果

(1) 区民と行政・事業者・大学等が協働ですること

OH27年度中間点検時の地域代表者へのアンケート結果 OH30市協会長会議での各学区での取組状況評価

・地域と行政が力を合わせ、防災や地域の安全について、長期的な視点に立った取組を進めている
…52.0%

北部	中部北	中部南	南部	区平均
3.6	3.5	3.7	4	3.7

〇まちづくり活動支援交付金事業(一例)

- ・みんなが助け、支え合う安心安全な大原の里づくり（大原自治連合会）（H27）
集落単位の声がけに重点を置いた防災訓練の実施や避難行動マニュアル、要支援者台帳の作成
- ・表現力・防災力向上！ 地域防災演劇ワークショップ（NPO法人フリンジシアタープロジェクト）（H28～29）
防災演劇ワークショップを通じて、子どもでもわかりやすい防災演劇を制作
- ・自主防災員研修テキストの制作と研修会の実施（東大路高野大3住宅管理組合）（R1）

(2) 行政（区役所・市役所）がすること（一例）

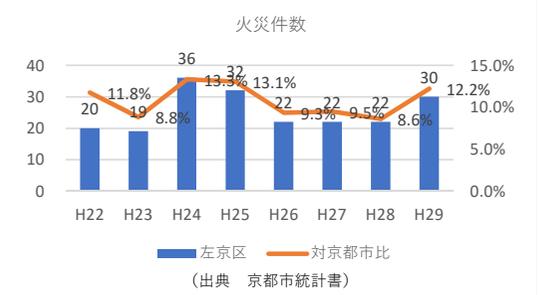
- 〇災害に強い左京区づくり事業（区役所）
- 〇地域防災体制の構築（区役所、行財政局）
- 〇「いのちを守る 橋りょう健全化プログラム」の推進（建設局）
- 〇自主防災組織の活動能力の向上（防災行動マニュアルの作成）（消防局）

＜関連する分野別計画、指針等＞

- 〇京都市国民保護計画（平成18年度～）
- 〇京都市危機管理基本計画（平成16年度～）
- 〇京都市地域防災計画（昭和37年～）
- 〇京都市国土強靱化地域計画（平成30年度～令和4年度）（以上行財政局）
- 〇いのちを守る 橋りょう健全化プログラム（建設局）

2 客観評価（関連指標）

- 〇区内の指定避難所数 47施設
- 〇区内の広域避難場所数 6箇所
- 〇指定緊急避難場所数（水害・土砂災害） 39箇所



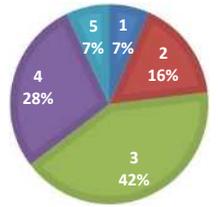
3 区民の実感

(1)「左京はあとふるプラン」区民アンケート結果 (H31.1～3実施)

〇区民が防災意識を高く持ち、災害に強いまちづくりが進んでいる。

(そう思う：5～
そう思わない：1の
5段階評価)

3.1
(平均値)



(2)「左京の魅力」アンケート結果 (H30.5～7実施)

—

(3)区民や団体等からの御意見

- 〇左京区のまちについて、良いと思うこと、魅力と思うこと
-
- 〇左京のまちについて、課題だと思うこと、より良くしていきたいと思うこと
 - ・防災意識もあまりピンと来ていない方が多いようです。(40代女性)
 - ・駅付近では歩きタバコやタバコのポイ捨てが目立つ。京都は木造住宅も多いから怖い。(20代女性)
 - ・孤立している人（若者～高齢者）をサポートする人が少ない。(50代男性)
 - ・土砂災害危険地域の改善策はないのか。河川改修砂防えん提等の設置で改善される地域があるのではないか。危険地域に指定するだけでその後の対策がない。住民（人）が住めなくなる。(50代男性)

III 「左京はあとふるプラン」計画期間の総括

評価点	今後の課題
<ul style="list-style-type: none"> ・各地域で自主防災会を中心に、防災訓練や避難行動マニュアルの整備が進められている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年の台風・豪雨により、初めて全学区に避難情報が発令されたが、北部山間地域において長期間にわたる停電や電話の不通、大規模な倒木による通行止め、交通機関の運休など、甚大な被害が発生し、新たな課題が顕在化した。 一方で、非常時の備えや避難の方法など、区民の防災意識を向上させる必要がある。

目標2 歴史・文化・学問のまちづくり

取組分野6 歴史資源・文化財

I 「左京はあとふるプラン」に掲げた取組項目

左京区は、区内の至るところに、悠久の歴史や文化が息づいています。著名な社寺、我が国有数の文化財が点在するほか、身近なところで区民に愛される景観があり、地域の方々によって守られています。左京区に住む子どもたちが、これらを日々の暮らしや学校等と地域の連携の中で学んでいく必要があります。変わらないものと変わっていくものが共存できるまちを目指すことが重要です。

取組項目	区民一人ひとりができること	区民と行政・事業者・大学等が協働ですること	行政（区役所・市役所）がすること
	左京区の歴史や文化を学ぶ。	歴史や文化を学ぶ仕組みをつくる。	文化財の保全・活用を進める。
	<ul style="list-style-type: none"> 豊かな伝統と歴史を誇る左京区の魅力を学び、次世代へと継承していく。 自然と歴史が融合した文化の良さや日常的な文化的景観を再認識し、守っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の歴史や文化、古くから傳承されてきた生活習慣について、地域と学校、大学等の連携により、区民が気軽に学ぶことのできる仕組みづくりを進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 貴重な文化財の調査を行い、保全・活用を進める。 歴史や文化についての情報を発信し、魅力を伝える。

II 計画期間中の取組状況

1 取組結果

(1) 区民と行政・事業者・大学等が協働ですること

OH27年度中間点検時の地域代表者へのアンケート結果 OH30市協会長会議での各学区での取組状況評価

・地域の歴史や文化、古くから傳承されてきた生活習慣について、地域と学校、大学等の連携により気軽に学ぶことができる仕組みづくりを進めている
…23.0%

北部	中部北	中部南	南部	区平均
3.7	3.8	2.7	2.5	3.2

〇まちづくり活動支援交付金事業(一例)

- 鞍馬街道を伝説でつなぐプロジェクト（鞍馬街道伝説会）（H28～29）
京都精華大学と協働し、鞍馬街道にまつわる伝説を記したイラスト入りの冊子を作成
- 大原野村町「飯導寺神社」の歴史保存と地域活性化（大原野村町飯導寺神社歴史保存の会）（H30）
京都造形芸術大学生のデザインによる「飯導寺神社」の歴史を後世に伝えるための看板を作成
- 琵琶湖疏水を通して出会う、学ぶ、深まる、広がる（琵琶湖疏水アカデミー）（H30）
琵琶湖疏水新聞コンテストや地域の方による訪問授業等の開催を通じ、貴重な歴史資源である琵琶湖疏水についての子どもの理解を深めた

(2) 行政（区役所・市役所）がすること（一例）

- 〇左京・地域ゆかりの文化発信・継承プロジェクト
- ・「左京・地域ゆかりの写真展」の開催
- 〇久多の文化財を活かしたまちづくり～山村生活用具を触る・使う・残す～（以上区役所）
- 〇子どもたちに対する文化財普及啓発事業（区役所、文化市民局）

<関連する分野別計画、指針等>

- 〇第2期京都文化芸術都市創生計画（平成29年度～令和8年度）
- 〇京都市歴史的風致維持向上計画（平成21年度～令和2年度）（以上建設局）
- 〇歴史都市・京都創生策Ⅱ（平成24年度～）（総合企画局）
- 〇京町屋再生プラン（平成12年度～）（都市計画局）

2 客観評価（関連指標）

〇世界文化遺産の数	〇国宝・重要文化財の数	〇「京都を彩る建物や庭園」選定件数
京都市 14	国宝 重要文化財	京都市 390
左京区 2	京都市 211 1,879	左京区 57
賀茂御祖神社（下鴨神社）	左京区 25 279	
慈照寺（銀閣寺）		

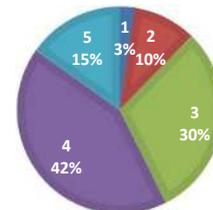
3 区民の実感

(1)「左京はあとふるプラン」区民アンケート結果（H31.1～3実施）

〇豊かな伝統と歴史・文化について、子どもたちが学ぶ機会があり、守り育てられている。

（そう思う：5～
そう思わない：1の
5段階評価）

3.6
（平均値）



(2)「左京の魅力」アンケート結果（H30.5～7実施）

〇左京の魅力として、「寺社仏閣・観光施設が多い・世界遺産がある」ことを挙げた区民の数

79 / 466人（17.0%）

(3)区民や団体等からの御意見

〇左京区のまちについて、良いと思うこと、魅力と思うこと

- ・世界遺産がある。（多数の方）
- ・神社仏閣が多く、歴史を身近に感じるところ。（40代女性）
- ・深い歴史と豊かな文化がある。
- ・歴史的・文化的な空間も至る所に点在しており、様々な非日常的な空間が生活空間と隣接しているところが、左京区の魅力です。（以上 まちづくり活動支援交付金団体）

〇左京のまちについて、課題だと思うこと、より良くしていきたいと思うこと

- ・地域性を大切にしようとした取り組みを次世代へ継続していく事だと考える。（まちづくり活動支援交付金団体）

III 「左京はあとふるプラン」計画期間の総括

評価点	今後の課題
<ul style="list-style-type: none"> ・平成27年に京都市ではじめて、「京都岡崎の文化的景観」が、国の「重要文化的景観」に選定された。 ・区民が自主的に地域の歴史を学び保存する活動や、小学校において地域の昔の民具を保管する取組などが広がっている。 ・平成23年に創設された「京都を彩る建物や庭園」制度により、区民による新たな文化的資源の発掘が進められている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・左京区の宝ともいえる歴史資源・文化遺産についての学びや活用の機会の更なる促進

目標2 歴史・文化・学問のまちづくり

取組分野7 伝統行事

I 「左京はあとふるプラン」に掲げた取組項目

左京区には、昔ながらの形で保存・継承されてきた伝統行事が数多くありますが、これらの伝統行事を支えている保存会では、行事を受け継ぐ次世代の育成が課題となっています。
大学や小学校との連携も視野に入れ、子どもが地域の行事に参加できるような仕組みづくりが必要であるとともに、新しい住民の方に伝統行事への参加を呼びかけていくことが重要です。

取組項目	区民一人ひとりができること	区民と行政・事業者・大学等が協働ですること	行政（区役所・市役所）がすること
	伝統行事を守り伝える。 ・区内の多くの伝統行事の魅力や大切さを再発見、再認識し、守り伝える。 ・若い世代や子どもに伝統行事を伝えるとともに、行事への参加を呼びかける。	小学校等との連携により、伝統行事を継承する。 ・子どもたちが地域の文化や伝統行事を学ぶ機会をつくる。 ・伝統行事の保存・継承の課題解決に向けた取組を進める。	伝統行事に関する情報交換を支援する。 ・伝統行事を担う人のネットワークにより、地域間の交流や必要な資材等に関する情報交換を支援する。 ・伝統行事の魅力や課題等の広報を展開する。

II 計画期間中の取組状況

1 取組結果

(1) 区民と行政・事業者・大学等が協働ですること

OH27年度中間点検時の地域代表者へのアンケート結果 OH30市協会長会議での各学区での取組状況評価

- 子どもたちが地域の文化や伝統行事を学ぶ機会をつくっている …49.3%
- 伝統行事の保存・継承の課題解決に向けた取組を進めている …39.2%

北部	中部北	中部南	南部	区平均
4.3	4	3.5	3	3.7

○まちづくり活動支援交付金事業(一例)

- 和太鼓による地域の活性化と伝統文化の継承（吉田今宮太鼓）(H27~29)
吉田地域に伝わる和太鼓の演奏や体験会を通じ、地域や世代を超えた交流と文化の継承を促進
- 岩倉史謡・舞踊の保存と後世への伝承（岩倉史謡・舞踊保存会）(H30)
岩倉史謡・舞踊の実演や講演会、「保存会だより」の発行や地域の小学校の生徒による伝統的な手ぬぐいの作成体験等の実施
- 石座神社に伝わる伝統文化、剣鉾の復活と継承（石座神社剣鉾保存会）(H30)
石座神社大祭において、56年ぶりに剣鉾を差して巡幸を実施、かつての祭りの姿の復活に寄与

(2) 行政（区役所・市役所）がすること（一例）

- 左京・地域ゆかりの文化発信・継承プロジェクト
- ・京都府立大学・地域貢献型特別研究（ACTR）との協働による地域の祭礼の調査研究
- ・「地域の伝承」調べ隊講座の開講
- 「おつぎのまつり 左京伝統行事ガイド」の発行（以上区役所）

<関連する分野別計画、指針等>

- 第2期京都文化芸術都市創生計画（平成29年度～令和8年度）

2 客観評価（関連指標）

○国の重要無形民俗文化財
久多花笠踊

○京都市登録無形民俗文化財の数

京都市 54
左京区 24
(送り火、松上げ、真如堂の十夜鉦等)

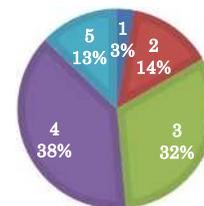
3 区民の実感

(1)「左京はあとふるプラン」区民アンケート結果 (H31.1~3実施)

○地域の伝統行事について、新しい住民や子どもたちが学んだり参加したりする機会があり、守り伝えられている。

(そう思う：5～
そう思わない：1の
5段階評価)

3.4
(平均値)



(2)「左京の魅力」アンケート結果 (H30.5~7実施)

○左京の魅力として、「歴史的な風土や伝統的な文化がある」ことを挙げた区民の数

37 / 466人 (7.9%)

(3)区民や団体等からの御意見

○左京区のまちについて、良いと思うこと、魅力と思うこと

- ・大文字・妙法の送り火等、伝統行事があるところ。 (年齢・性別無回答)
- ・伝統的な建物や行事が多い (50代女性)
- ・民俗行事が残っている。 (70代女性)

○左京のまちについて、課題だと思うこと、より良くしていきたいと思うこと

- ・地域の保存会などが学校と連携して伝統文化を子どもたちに指導する事業が左京区内のあちこちの学区で実施されているので、区民しんぶん等で紹介してほしい。 (年齢・性別無回答)
- ・伝統文化が息づいていること、周囲に素晴らしい自然が残されていることは左京区の特徴。今後、これらを保全、継承するしくみづくりが必要。 (まちづくり活動支援交付金団体)

III 「左京はあとふるプラン」計画期間の総括

評価点	今後の課題
・左京区ならではの豊かな伝統文化が区民の手によって守り継がれている。	・区内各地域において、様々な伝統行事が区民によって継承されている中、少子高齢化の進展によって担い手が減少している。

目標2 歴史・文化・学問のまちづくり

取組分野8 観光

I 「左京はあとふるプラン」に掲げた取組項目

左京区には、豊かな自然、美しい景観、歴史ある神社仏閣など、誇るべき観光資源が数多くあります。多くの人々が国内外から左京区に来て、その自然や文化などを学んで帰ります。そのような観光客に対して、迎え入れる区民は歴史や文化をよく知ったうえで、もてなせば、観光客の満足度は更に上がるものと思われます。観光を単なる産業としてとらえるのではなく、地域住民の暮らしとの調和を図りながら、地域の文化として区民で支えていくことが重要です。

取組項目	区民一人ひとりができること	区民と行政・事業者・大学等が協働ですること	行政（区役所・市役所）がすること
	観光客に左京区の文化を伝える。	自然を生かした観光の仕組みづくりを進める。	地域の魅力を生かした観光を支援する。
	・左京区の文化を理解し、地域の文化を発信する。 ・国内外からの観光客をおもてなしの心で温かく迎える。	・農林業や食文化の体験、風景観賞など、自然を生かした観光の仕組みづくりを進め、北部地域と中南部地域の交流を図る。	・観光客によるごみの散乱等を防ぎ、自然や文化をゆっくり味わうことのできる観光を目指し、地域の魅力づくりを支援する。

II 計画期間中の取組状況

1 取組結果

(1) 区民と行政・事業者・大学等が協働ですること

OH27年度中間点検時の地域代表者へのアンケート結果 OH30市協会長会議での各学区での取組状況評価

・農林業や食文化の体験、風景観賞など、自然を生かした観光の仕組みづくりを進めている
…6.8%

北部	中部北	中部南	南部	区平均
3	1.9	2	2.3	2.3

〇まちづくり活動支援交付金事業(一例)

- ・隠れた大原の魅力を探訪する里山体験プログラム企画（もっと大原里山研究所）(H28～29)
大原の隠れた観光資源を地域住民と共に探索し、茶会やウォーキングイベントを開催
- ・地域の隠れた景観の発見とMAP作りプロジェクト（白川あかり茶の湯の会）(H29～30)
仮設の茶室から岡崎や白川の景観を楽しむ茶会の開催と、散策マップの作成

(2) 行政（区役所・市役所）がすること（一例）

- 〇岡崎地域活性化推進事業（総合企画局、文化市民局、区役所）
- 〇農家民宿・体験民宿開業の促進
- 〇大原地区観光農村育成支援
- 〇みやこめっせのMICE拠点化（以上産業観光局）
- 〇「京の七夕」事業（産業観光局、総合企画局）
- 〇観光地トイレのおもてなし向上プロジェクト（環境政策局）

<関連する分野別計画、指針等>

- 〇京都市観光振興計画2020+1（平成26年度～令和2年度）
- 〇京都市MICE戦略2020（平成26年度～令和2年度）
- 〇京都市宿泊施設拡充・誘致方針（平成28年度～）

2 客観評価（関連指標）



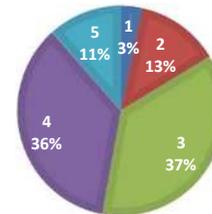
3 区民の実感

(1) 「左京はあとふるプラン」区民アンケート結果 (H31.1～3実施)

〇地域の伝統行事について、新しい住民や子どもたちが学んだり参加したりする機会があり、守り伝えられている。

(そう思う：5～
そう思わない：1の
5段階評価)

3.4
(平均値)



(2) 「左京の魅力」アンケート結果 (H30.5～7実施)

〇左京の魅力として、「寺社仏閣・観光施設が多い・世界遺産がある」と回答した左京区外の方の数

109 / 412人 (26.5%)

〇左京の魅力として、「お洒落な店、个性的な店、おいしい飲食店が多い」と回答した左京区外の方の数

83 / 412人 (20.1%)

(3) 区民や団体等からの御意見

〇左京区のまちについて、良いと思うこと、魅力と思うこと

- ・大原三千院や八瀬があるところ。
(60代女性)
- ・ラーメン街道があり、観光地が多いところ。
(40代女性)
- ・岡崎の文化ゾーン、北山駅近くの下鴨、上賀茂等のファッション、飲食店ゾーン、北部山間、山村等バラエティに富んでいる。
(50代男性、区外の方)
- ・歴史ある寺社が多く、緑もあるので、リラックスしながら観光できる。花背や久多などの山間部にも魅力がある。(20代女性、区外の方)
- 〇左京のまちについて、課題だと思うこと、より良くなってほしいと思うこと
- ・観光客よりも、市民の事を一番に考えた住みやすいまちづくりを希望。
(20代女性)
- ・随所に空き家が目立ち、民泊等ができています。行政と地域の協力で調和のとれたまちづくりが進むことを期待する。
(70代男性)
- ・京都の街全体が観光都市化していく中で、左京区に住む人々の生活上の利便性をどのように確保するのが課題だと思います。
(まちづくり活動支援交付金団体)

III 「左京はあとふるプラン」計画期間の総括

評価点	今後の課題
<ul style="list-style-type: none"> ・京都全体で観光客（特に外国人観光客）が増える中、左京区の各エリアに多くの観光客が訪れている。 ・北部山間地域では農家民宿の開業により、体験型の観光が進んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・観光客が増えるに伴い、空き家を活用した民泊施設の増加など、生活環境の悪化を懸念する声が区民から出ている。 ・岡崎エリア周辺では、観光バス、タクシーの路上駐車が常態化するなど、交通環境の悪化がみられる。

目標2 歴史・文化・学問のまちづくり

取組分野9 文化・芸術

I 「左京はあとふるプラン」に掲げた取組項目

左京区には、市民の寄付により建設された京都市動物園や京都市美術館等、多くの文化施設があるほか、各地域で自然や暮らしと結びついた文化・芸術が受け継がれ、楽しまれてきました。文化・芸術を楽しむところを受け継ぐため、区民がその魅力に触れる仕組みを考えるとともに、自然と歴史を生かした左京区ならではの新しい文化・芸術の創造と発信が期待されます。

取組項目	区民一人ひとりができること	区民と行政・事業者・大学等が協働ですること	行政（区役所・市役所）がすること
	文化・芸術を楽しむ。 ・区内の文化・芸術施設を訪ね、文化・芸術を楽しむ。 ・暮らしの中に息づく文化を新しい視点で受け継いでいく。	自然を文化・芸術に生かす。 ・区内の自然を文化・芸術に取り入れることができる仕組みづくりを進める。 ・区民が左京区の文化を学ぶ機会をつくる。	文化・芸術を身近に感じられる機会を提供する。 ・文化・芸術を気軽に触れることができる仕組みづくりを進める。 ・食文化やいけ花などの自然と結びついた文化を体感できる機会を提供する。

II 計画期間中の取組状況

1 取組結果

(1) 区民と行政・事業者・大学等が協働ですること

OH27年度中間点検時の地域代表者へのアンケート結果 OH30市協会会長会議での各学区での取組状況評価

- ・区内の自然を取り入れ文化・芸術活動をしている …8.8%
- ・左京の文化を学べる機会をつくっている …7.4%

北部	中部北	中部南	南部	区平均
2.3	2.1	2.4	2.5	2.3

○まちづくり活動支援交付金事業(一例)

- ・脳いきいき！臨床美術で楽しく笑顔で過そう！（臨床美術京の会）（H28～30）
高齢者対象の臨床美術を活用した講座やワークショップの開催を通じ、健康寿命の増進を図る
- ・“ほんまもん”にふれよう～小学生が学ぶ京の伝統産業～（景アート）（H29～30）
橋本関雪記念館にて小学生を対象とした表具の展示や和菓子作り等の体験ワークショップを実施
- ・岡崎食と音楽のまちづくり（食と音楽のまち岡崎実行委員会）（H27～28）
地域店舗、音楽活動者、学生、住民の間のつながりを促進する食文化と音楽のイベントを開催

(2) 行政（区役所・市役所）がすること（一例）

- 左京・地域ゆかりの文化発信・継承プロジェクト
- ・左京食文化推進事業「“ほんまもん”の食を楽しもう」
- ・京の伝統文化体験in大学のまち左京（以上区役所）
- ロームシアター京都オープニング事業
- 京都市美術館再整備
- 京都市動物園ランドオープン記念事業（以上文化市民局）

<関連する分野別計画、指針等>

- 第2期京都文化芸術都市創生計画（平成29年度～令和8年度）
- 京都市文化芸術プログラム2020+（平成26年度～令和2年度）
- 京都市美術館将来構想（平成26年度～）
- 京都市美術館再整備基本計画（平成27年度～令和元年度）

2 客観評価（関連指標）

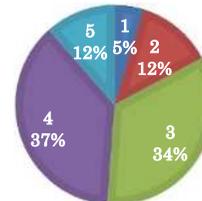
- 美術館、博物館の数
42館
（平成31年3月現在）

3 区民の実感

(1)「左京はあとふるプラン」区民アンケート結果（H31.1～3実施）

○区民が文化・芸術を楽しみ、創造する環境づくりができています。

（そう思う：5～
そう思わない：1の
5段階評価）



3.4
（平均値）

(2)「左京の魅力」アンケート結果（H30.5～7実施）

○左京の魅力として、「文化施設が多い」ことを挙げた区民の数

44 / 466人（9.4%）

(3)区民や団体等からの御意見

○左京区のまちについて、良いと思うこと、魅力と思うこと
・伝統文化と新しい文化が良い具合に融合している。（70代女性）
・美術館や芸術系大学が多く、文化度が高い。（40代女性）
・元々京都のフォークソング発祥の地ともいわれている左京区は、新しいものや雑多なものへの受け入れが緩やかにでき、他の区とは違った良さがあるように思う。
（まちづくり活動支援交付金団体）

○左京のまちについて、課題だと思うこと、より良くしていきたいと思うこと
・音楽や舞台芸術に対する援助・取り組みを活発にしていればよいと思う。（50代男性）
・図書館など文化施設が圧倒的に少ない。（30代男性）

III 「左京はあとふるプラン」計画期間の総括

評価点	今後の課題
<ul style="list-style-type: none"> ・岡崎や北山の文化エリアにおいて、文化施設（京都市動物園、京都府会館、京都市美術館、京都府資料館）のリニューアルが進んでいる。 ・区内の大学、文化施設、地域において、各機関・施設や区民による主体的な文化芸術活動が広がっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・区民が文化・芸術に触れ、学び、関わる機会の創出

目標2 歴史・文化・学問のまちづくり

取組分野10 大学のまち

I 「左京はあとふるプラン」に掲げた取組項目

区内に6つの大学がある左京区は、「大学のまち・左京」として、大学と地域の連携に積極的に取り組んできました。学生には、研究や伝統行事等を通じた地域社会との関わりが期待される一方、自転車やごみ出し等のマナーの向上も求められます。学生の持つ柔軟な発想と若々しい力が左京のまちを大きく変える可能性があり、大学と地域がうまく交流していくことが重要です。

取組項目	区民一人ひとりができること	区民と行政・事業者・大学等が協働ですること	行政（区役所・市役所）がすること
	地域と大学との交流を図る。 ・近くの大学に通う学生や地域で暮らす学生と交流を図り、若い力でまちづくりを進める。 ・学生は生活や交通マナーを守る。	大学の発想を生かしたまちづくりを進める。 ・学生や研究者の視点を生かした地域の課題解決とまちづくりを進める。 ・学生の地域の行事への参加を促す。	大学が連携できる仕組みづくりを進める。 ・区内の大学が連携し、左京区ならではの共同作業ができる仕組みづくりを進める。 ・地域と大学の協働によるまちづくりを支援し、更なる情報発信を行う。

II 計画期間中の取組状況

1 取組結果

(1) 区民と行政・事業者・大学等が協働ですること

OH27年度中間点検時の地域代表者へのアンケート結果 OH30市協会長会議での各学区での取組状況評価

- ・学生や研究者と連携した地域の課題解決やまちづくりを進めている …10.8%
- ・地域行事に学生の参加を促している …22.3%

北部	中部北	中部南	南部	区平均
2.4	2.8	2.8	3.0	2.8

○まちづくり活動支援交付金事業(一例)

- ・京都動物物語絵本の制作・出版とその朗読普及活動（京都ノートルダム女子大学 日本語と古典文化ゼミ（H27）
学生が京都が舞台の古典から動物が登場する物語をとりあげた絵本を作詞し、近隣の図書館や幼稚園で読み聞かせ活動を実施
- ・創造力向上のための英語を活用したこども向け講座開発（京都精華大学）（H29～30）
留学生の企画による英語でのマンガづくり等のワークショップの実施

(2) 行政（区役所・市役所）がすること（一例）

- 「左京×学生 縁ねっと」
- 「大学のまち・左京」推進協議会開催
- 区民が参加できる大学のイベント・事業を、市民しんぶん区版や区ホームページで広報、区庁舎でのチラシの配架
- 大学での研究成果や所蔵品、学生の活動成果に関する展示を区総合庁舎内で実施
- 京都精華大学と包括連携協定締結（平成30年12月）（以上区役所）

<関連する分野別計画、指針等>

- 大学のまち京都・学生のまち京都推進計画（平成26年度～平成30年度）（総合企画局）

2 客観評価（関連指標）

○大学・短期大学の数

京都市 38
左京区 6

平成31年3月現在
大学院のみの大学を除く

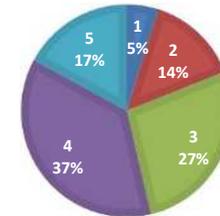
3 区民の実感

(1)「左京はあとふるプラン」区民アンケート結果（H31.1～3実施）

○学生が伝統行事に携わるなど、大学が地域と関わりを持つとともに、大学生の発想と若い力がまちづくりに活かされている。

（そう思う：5～
そう思わない：1の
5段階評価）

3.5
（平均値）



(2)「左京の魅力」アンケート結果（H30.5～7実施）

○左京の魅力として、「大学・学校が多い、学生が多い」ことを挙げた区民の数

57 / 466人（12.2%）

(3) 区民や団体等からの御意見

○左京区のまちについて、良いと思うこと、魅力と思うこと

- ・学生が多く、活気がある。（70代男性）
- ・学力が高く、人もまちの雰囲気も上品（30代女性）
- ・学生に優しい。（20代男性）

○左京のまちについて、課題だと思うこと、より良くしていきたいと思うこと

- ・学生が多く、にぎやかだけど、交通マナーが悪い。（50代男性）
- ・少子化の中で子供や若い人が少なくなったせいか、かつてのような活気がないように感じる。幸い左京区は大学も多く、学生の力をより活用することが出来ればと思う。（まちづくり活動支援交付金団体）

III 「左京はあとふるプラン」計画期間の総括

評価点	今後の課題
・大学の地域と連携した研究・教育活動や、左京区まちづくり活動支援交付金制度の活用、「左京×学生 縁ねっと」等の実施を通して、大学の研究成果の地域への還元や、大学と地域との連携が進んでいる。	・地域の課題解決への大学の知見の活用や大学の地域をフィールドとした研究の促進

目標3 ひとにやさしいぬくもりのまちづくり

取組分野1 1 子ども

I 「左京はあとふるプラン」に掲げた取組項目

子どもは、左京区の将来を担っていくかけがえのない宝です。少子高齢化等により家庭規模の縮小が進む中、子どもを地域全体で見守り、育む安心・安全のまちづくりを長期的な視点で考える必要があります。北部地域は、子どもが極めて少ない一方、豊かな自然と整った教育施設があり、中南部地域との交流も図りながら、子どもが自然の中でのびのびと育つ、左京区ならではの子育て支援を進めることが重要です。

取組項目	区民一人ひとりができること	区民と行政・事業者・大学等が協働ですること	行政（区役所・市役所）がすること
	子どもを地域全体で見守り、育てる。	子どもの安心・安全を確保する。	出産・育児や子どもの学びを支援する。
	・子どもを地域全体で守るため、大人からあいさつをする。 ・子どもや子育てを地域全体で考え、支えあふ。 ・民生児童委員や区社協等主催の子育てサロンに参加する。	・子どもの安心・安全を確保し、健康で健全な成長を支援する。 ・地域行事に子どもが参加する機会を増やし、子どもが地域のことを学べるようにする。	・子どもが区内の施設を訪問し、興味を持って学べる仕組みや自然に触れる機会の提供を行う。 ・子どもを安心して産み、健やかに育てることができる環境をつくる。

II 計画期間中の取組状況

1 取組結果

(1) 区民と行政・事業者・大学等が協働ですること

OH27年度中間点検時の地域代表者へのアンケート結果 OH30市協会長会議での各学区での取組状況評価

- ・子どもの安心・安全を確保し、健康で健全な成長を支援している…54.7%
- ・地域行事に子どもが参加する機会を増やし、子どもが地域のことを学んでいる…40.5%

北部	中部北	中部南	南部	区平均
4.6	4.0	4.1	4.3	4.2

Omachiづくり活動支援交付金事業(一例)

- ・未就学児とその保護者の居場所づくり(かもっこ)(H29~R1)
下鴨小学校ふれあいサロンにて、未就学児(とくに未就園児)にのびのびと遊べる場を提供するとともに、保護者の悩みに寄り添い、専門家からのアドバイス等の実施を通じて子育てを支援
- ・まちのきゅうしよくしつ(給食人サークル)(H28~30)
元保育園の調理師が保護者と一緒に離乳食を作る会を開催し、初めての子育てを支援
- ・地域の子育て世代の学び、交流、ワークショップ等の活動(茶山のさとママ&ベビーの会)(H30)
11回のワークショップ等を通じ、地域の子育て世代の交流とつながりを促進

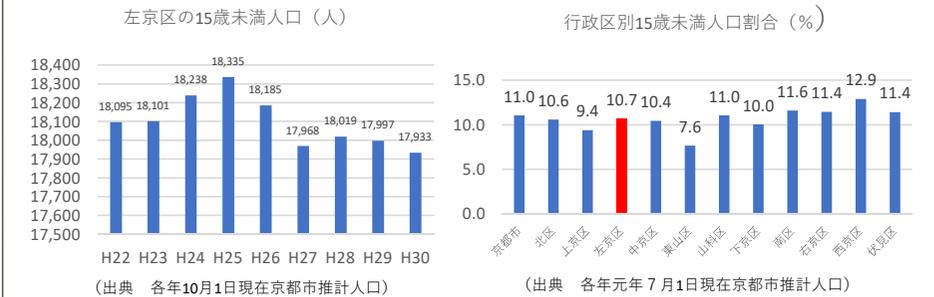
(2) 行政(区役所・市役所)がすること(一例)

- 子育てみーとあつぷ
- 親子の健康づくり講座
- さきょうほっこりベビーフェスタ☆(以上区役所)
- 子どもを共に育む『親支援』プログラム~ほっこり子育てひろば~(教育委員会)

<関連する分野別計画、指針等>

- 京都市未来こどもはぐくみプラン(平成27年度~令和元年度)
- 市営保育所の今後の在り方に関する基本方針(改訂版)(平成24年度~)
- 京都市貧困家庭の子ども・青少年対策に関する実施計画(平成29年度~令和元年度)(以上子ども若者はぐくみ局)

2 客観評価(関連指標)



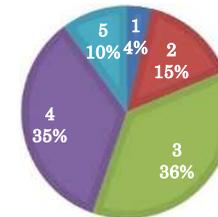
3 区民の実感

(1)「左京はあとふるプラン」区民アンケート結果(H31.1~3実施)

○子どもを安心して産み、健やかに育てられる環境が整っていると同時に、子どもを地域全体で見守り、育てている。

(そう思う: 5
そう思わない: 1
5段階評価)

3.3
(平均値)



(2)「左京の魅力」アンケート結果(H30.5~7実施)

○左京の魅力として、「子育てがしやすい・教育環境が良い」ことを挙げた区民の数

27 / 466人 (5.8%)

(3)区民や団体等からの御意見

○左京区のまちについて、良いと思うこと、魅力と思うこと

- ・子育て世代のサポートが多い。(40代女性)
- ・子育てが安心してできること。(30代男性)

○左京のまちについて、課題だと思うこと、より良くしていきたいと思うこと

- ・働く女性への助けがない。お母さんの悩み相談場所がない。(まちづくり活動支援交付金団体)

III 「左京はあとふるプラン」計画期間の総括

評価点	今後の課題
・各地域における朝の見守り活動や地蔵盆の取組など、子どもを地域で見守り、育てる活動が定着しているとともに、区民による自主的な子育て支援活動が広がっている。	・核家族化や共働き世帯、ひとり親の増加、人間関係の希薄化等により子育て世代の負担感・不安感が増し、児童虐待等の問題が顕在化している。

目標3 ひとにやさしいぬくもりのまちづくり

取組分野12 高齢者

I 「左京はあとふるプラン」に掲げた取組項目

左京区でも高齢化が進んでおり、区内の100歳以上の高齢者数は京都市の区の中で最多です。左京区に暮らしてきた高齢者の方が守り育てた豊かな自然、歴史や文化を、将来を担う次の世代に伝え、導いていくためにも、高齢者の方に健やかに暮らし、地域でいきいきと活躍していただく必要があります。一人暮らしの高齢者への見守り等を通じた、地域全体で顔の見える関係づくりが重要です。

取組項目	区民一人ひとりができること	区民と行政・事業者・大学等が協働ですること	行政（区役所・市役所）がすること
	みんなが安心して暮らせるよう、高齢者を支えあう。	地域で顔の見える関係づくりを進める。	高齢者が地域で活動できるよう支援する。
	・地域が支えあい、高齢者や家族が安心して外出し、暮らせる地域づくりに努める。 ・子どもとの交流など、高齢者の地域活動への参画を進める。	・高齢者が孤立しないよう、顔の見える関係づくりを進める。 ・地域の伝統行事等をきっかけに、高齢世代と子どもの世代間の交流を深める。	・交通バリアフリー等の推進により、高齢者が安全に外出し、いきいきと地域で活動できるよう支援する。

II 計画期間中の取組状況

1 取組結果

(1) 区民と行政・事業者・大学等が協働ですること

OH27年度中間点検時の地域代表者へのアンケート結果 OH30市協会長会議での各学区での取組状況評価

- ・地域で顔の見える関係づくりを進めている…54.7%
- ・地域の伝統行事などをきっかけに、高齢世代と子どもの世代をつないで交流を深めている…37.8%

	北部	中部北	中部南	南部	区平均
	4.0	3.5	3.8	3.5	3.7

〇まちづくり活動支援交付金事業(一例)

- ・認知症カフェ開催によるまちづくり事業（にこにこ・オレンジカフェ・いわくら）(H29, 30)
- ・認知症の方やその家族の居場所づくりと、認知症サポーター養成講座の開催
- ・みんなで歌おう！うたごえカフェ（京都ピアノとうたの音楽ひろば）(H28~30)
- ・高齢者や子育て世代の孤立を防ぐため学区を超えてつながりを深める「うたごえカフェ」の開催

(2) 行政（区役所・市役所）がすること（一例）

- 〇左京・健康なまちづくりプロジェクト
- 〇セカンドライフをいきいきと生きる～左京・からだの学校～
- 〇高齢者にやさしい店（以上区役所）
- 〇地域ケア連絡協議会のネットワークの充実
- 〇地域包括支援センターへ地域ケア会議の開催支援
- 〇高齢サポート（地域包括支援センター）専門職員による単身高齢世帯の全戸訪問の継続（以上保健福祉局，区役所）

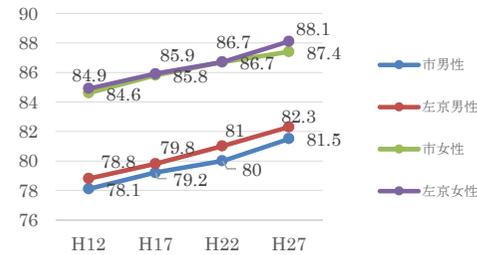
〇高齢者の居場所づくり助成（保健福祉局）

<関連する分野別計画、指針等>

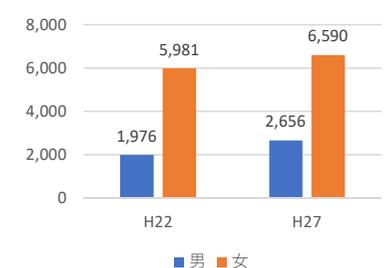
- 〇京都市民長寿・すこやかプラン（平成30年度～令和2年度）
- 〇健康長寿・笑顔のまち・京都推進プラン（平成30年度～令和4年度）
- 〇健康長寿のまち。京都食育推進プラン（平成28年度～令和2年度）

2 客観評価（関連指標）

左京区における平均余命



単身高齢者世帯数



出典：総合企画局情報化推進室「京都市における平均寿命・『平成27年市区町村別生命表の概況』から」

（出典 国勢調査）

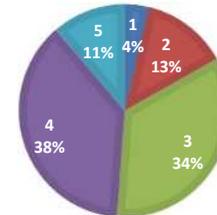
3 区民の実感

(1) 「左京はあとふるプラン」区民アンケート結果 (H31.1~3実施)

〇高齢者の方が健やかに暮らし、生き生きと地域で活躍している。

（そう思う：5～
そう思わない：1の
5段階評価）

3.4
（平均値）



(2) 「左京の魅力」アンケート結果 (H30.5~7実施)

〇左京の魅力として、「人が優しい、見守りがある」ことを挙げた区民の数

33 / 466人 (7.1%)

(3) 区民や団体等からの御意見

〇左京区のまちについて、良いと思うこと、魅力と思うこと

- ・高齢者にやさしく住みやすい。(70代女性)
- ・年配の人の活動が盛んなところ。(20代女性)

〇左京のまちについて、課題だと思うこと、より良くしていきたいと思うこと

- ・前後開閉式のドアとか杖をついている人には入りにくい施設が多いと思う。(20代男性)
- ・南部は交通の便が良く、観光地も多いが、空き家も増え、高齢化も進んでいる。地域役員さんも後継者不足を懸念している。現役世代やリタイア後の元気な高齢者の方の力をもっと活用できるようにしくみ作りが求められており、少しでもそのきっかけになればと思っています。(まちづくり活動支援交付金団体)

III 「左京はあとふるプラン」計画期間の総括

評価点	今後の課題
・高齢者による地域での見守り活動や伝統行事等を通じた世代間交流、自治会活動や自主的な活動への参加等、高齢者が地域でいきいきと活躍する状況が生まれている。	・核家族化等により高齢者を支えられる家族が少なくなり、家族の介護疲れ、老老介護、独居の高齢者が増加している。 ・独居の認知症高齢者の把握や各種サポート（保護時の身柄請け等）の充実

目標3 ひとにやさしいぬくもりのまちづくり

取組分野13 障害のあるひと

I 「左京はあとふるプラン」に掲げた取組項目

左京区では、これまでから地域で福祉に取り組む意識が受け継がれ、高齢者への支援と並んで、障害のある方への支援についても積極的に行われています。障害のあるひともないひとでも地域ですこやかに暮らしていくには、社会福祉協議会や区内の福祉施設等と区役所が更に連携を深め、地域の支え合いを進めていくことが重要です。

取組項目	区民一人ひとりができること	区民と行政・事業者・大学等が協働ですること	行政（区役所・市役所）がすること
	地域で福祉に取り組む意識を受け継ぐ。	地域ですこやかに暮らせるよう交流する。	地域のネットワークづくりを推進する。
	・地域で福祉に取り組む意識を受け継ぎ、障害の有無にかかわらず、すこやかに暮らせるよう、地域の支え合いを進める。	・社会福祉協議会等、区内の福祉事業者等が連携し、障害のあるひとがすこやかに地域で暮らせるよう、お互いの交流を深める。	・地域のネットワークづくりを推進し、障害の有無にかかわらず、地域での活動に参画できるよう支援する。

II 計画期間中の取組状況

1 取組結果

(1) 区民と行政・事業者・大学等が協働ですること

OH27年度中間点検時の地域代表者へのアンケート結果 OH30市協会長会議での各学区での取組状況評価

・社会福祉協議会を核としながら、区内にある福祉事業者等が連携し、障害のあるひとがすこやかに地域で暮らせるよう、お互いの交流を深めている
…32.4%

北部	中部北	中部南	南部	区平均
3.0	2.8	3.0	2.8	2.9

Oまちづくり活動支援交付金事業(一例)

- ・下南田町ふれあい交流事業（特定非営利活動法人さまま楽々堂）（H27～29）
サロン事業や文化教室の開催により、年齢や性別・障害の有無を問わず、相互理解と交流を促進
- ・聴覚障害者が楽しく安心して生活できる地域づくり（あたたかいハート）（H30、R1）
手話教室や防災学習会の開催等により、聴覚言語障害者等、支援を必要とする方への理解を促進
- ・植物園版「点字・触知図教本」の試作と研究成果の還元（京都府立大学森林計画学研究室）（H30）
視覚障害者向けの植物園版「点字・触知図」を試作し、10部を植物園、8部を左京区内の図書館、2部を盲学校へ寄贈

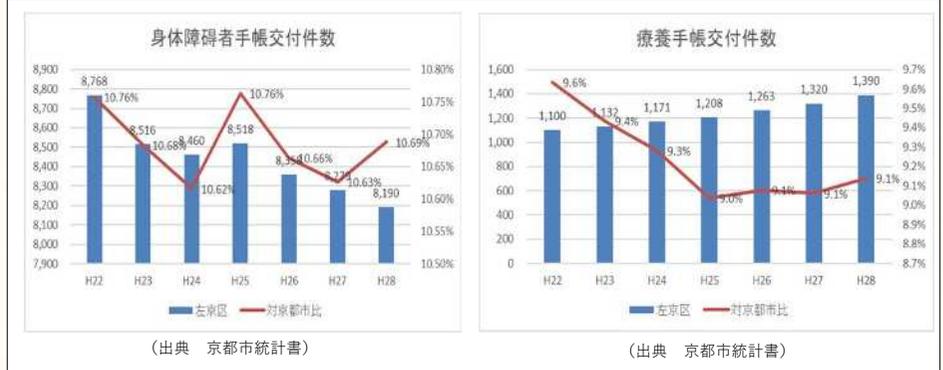
(2) 行政（区役所・市役所）がすること（一例）

- 左京はあとふるコーナー事業（区役所）
- 精神の障害についての理解の促進と障害のある方の地域内での交流（講演会や支援教室の実施）（区役所）

<関連する分野別計画、指針等>

- はぐくみ支えあうまち・京都ほほえみプラン（平成30年度～令和5年度）
- 京都市みやこユニバーサルデザイン推進指針（平成17年度～）（以上保健福祉局）

2 客観評価（関連指標）



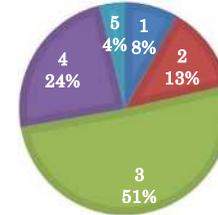
3 区民の実感

(1)「左京はあとふるプラン」区民アンケート結果 (H31.1～3実施)

○障害のある人もない人も、地域ですこやかに暮らせるよう交流し、支え合っている。

(そう思う：5～
そう思わない：1の
5段階評価)

3.0
(平均値)



(2)「左京の魅力」アンケート結果 (H30.5～7実施)

○左京の魅力として、「人が優しい、見守りがある」ことを挙げた区民の数 (再掲)

33 / 466人 (7.1%)

(3)区民や団体等からの御意見

○左京区のまちについて、良いと思うこと、魅力と思うこと

—

○左京のまちについて、課題だと思うこと、より良くなってほしいと思うこと

- ・車イスでの散歩が多いが、歩道のところどころに電柱があったり斜面になっていたり、凹凸が多く歩道を直してほしい。(70代女性)
- ・障害についての理解を深めるため、学校の授業や、行政・病院・福祉・介護関係者の職員研修などに組み込んでほしいと思っています。(まちづくり活動支援交付金団体)

III 「左京はあとふるプラン」計画期間の総括

評価点	今後の課題
・区内の関係機関や福祉施設、区役所が連携して、障害のある人がすこやかに地域で暮らせるよう交流が進んでいる。	・地域での障害者の居場所づくりや発災時の支援

目標3 ひとにやさしいぬくもりのまちづくり

取組分野14 市民参加・生活安全

I 「左京はあとふるプラン」に掲げた取組項目

区域が広大な左京区では、地域が育んできた歴史や文化が多彩で、地域活動への区民のかかわり方も異なります。左京区では、地域住民や学校、警察署、消防署等と連携し、すべての学区で安心安全ネットワークを構築し、安心・安全のまちづくりを進めています。区民の力を地域の活動に生かしていくためにも、左京区の特性を踏まえた地域活動を展開し、情報提供していくことが重要です。

取組項目	区民一人ひとりができること	区民と行政・事業者・大学等が協働ですること	行政（区役所・市役所）がすること
	地域活動への参加を呼びかける。 ・地域コミュニティへの参加を呼びかけ、気軽に参加できるよう工夫する。 ・左京区の特性を踏まえた取り組みやすい身近な活動を展開し、地域での情報共有を進める。	地域の団体との連携により、地域活動の輪を広げる。 ・スポーツ、福祉、教育などの地域の活動の輪を更に広げる。 ・地域の連携を深め、防犯・交通事故防止・防災に取り組む。	地域に関する情報を発信する。 ・市民しんぶんやホームページでの情報を充実させ、地域活動の広がりを支援する。

II 計画期間中の取組状況

1 取組結果

(1) 区民と行政・事業者・大学等が協働ですること

OH27年度中間点検時の地域代表者へのアンケート結果 OH30市協会長会議での各学区での取組状況評価

- ・スポーツ、福祉、教育等地域活動の輪を広げる …33.8%
- ・地域の連携を深め、防犯・交通事故防止・防災に取り組んでいる …57.4%

北部	中部北	中部南	南部	区平均
3.7	3.5	3.7	4.0	3.7

○まちづくり活動支援交付金事業(一例)

- ・飯ごう炊さん、防災訓練、盆踊り、餅つき大会を通じた地域改革（木野の楽人会）(H30, R1)
- ・旧村落の高齢者・独居世帯と、新たに開発された住宅地の子育て世帯等との親睦と交流及び地域の文化活動への参加を促進

(2) 行政（区役所・市役所）がすること（一例）

- 安心安全ネットワーク継続応援事業
- 左京・地域力アップ事業
- 町内会会長向け町内会加入促進冊子及びチラシ作成
- 地域活動紹介チラシを転入者へお渡し
- 左京区防犯防火ハンドブック（4箇国語版）の発行
- 左京区地域の安心安全活動支援事業補助金
- 左京区民ふれあい事業（左京区民ふれあいまつりなど）（以上区役所）
- 民泊対策（保健福祉局）
- 防犯カメラ設置促進補助事業（文化市民局）

<関連する分野別計画、指針等>

- 第2期京都市市民参加推進計画（平成23年度～令和2年度）（総合企画局）
- 第2次京都市生活安全（防犯・事故防止）基本計画（改訂版）（平成23年度～令和2年度）
- 京都市消費生活基本計画（平成18年度～令和2年度）
- 第10次京都市交通安全計画（以上文化市民局）
- 第2期京都市食の安全・安心推進計画（平成28年度～令和2年度）（保健福祉局）

2 客観評価（関連指標）

町内会加入率（%）



（出典 左京区役所）

まちづくり活動支援交付金
申請・交付状況



（出典 左京区役所）

交通事故件数



（出典 京都市統計書）

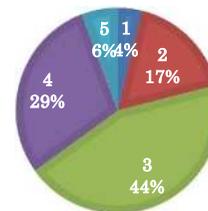
3 区民の実感

(1) 「左京はあとふるプラン」区民アンケート結果 (H31.1~3実施)

○区民が地域の活動に関わることができ、安心・安全のまちづくりなど、地域活動に多くの区民の力が生かされている。

（そう思う：5～
そう思わない：1の
5段階評価）

3.2
（平均値）



(2) 「左京の魅力」アンケート結果 (H30.5~7実施)

○左京の魅力として、「治安が良い、安心できる、犯罪が少ない」ことを挙げた区民の数

12人 / 466人 (2.5%)

(3) 区民や団体等からの御意見

○左京区のまちについて、良いと思うこと、魅力と思うこと

- ・ごちゃごちゃしておらず治安がいい。（30代女性）
- ・防犯活動が活発で犯罪が少ない。（60代男性）
- ・まちづくり活動に熱心な団体が多く、共に手を携えて左京を良くしていこうという思いが感じられます。
- ・市民発信型・市民参画型で地域性を生かした豊かな取組がなされている。（以上まちづくり活動支援交付金交付団体）
- 左京のまちについて、課題だと思うこと、より良くなりたいと思うこと
- ・自治会への加入、促しをもっとしてほしい。（50代女性）
- ・自治会組織の創意工夫されている事例の積極的な情報提供を望みます。（60代女性）
- ・区民が幅広い用途で利用できる公民館のような施設がない。
- ・地域のもの、それぞれの機能をいかして連携することで、安心・安全につながればいい。（以上 まちづくり活動支援交付金団体）

III 「左京はあとふるプラン」計画期間の総括

評価点	今後の課題
<ul style="list-style-type: none"> ・各学区において、住民、学校、警察、消防が連携して安心・安全の取組が行われている。 ・これまでの地域団体の活動に加え、左京朝カフェの活動や、左京区まちづくり活動支援交付金制度などを通して、自らのまちのために考え、行動する区民が増えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援事業に関する情報を発信し、より多くの学区・地域で制度を利用してもらうことが必要 ・市民協働を促進する様々な仕組みや制度の普及を通して、まちづくりを「自分ごと」と考える区民を増やすことが必要

目標3 ひとにやさしいぬくもりのまちづくり

取組分野15 交流・共生

I 「左京はあとふるプラン」に掲げた取組項目

左京区は、区域が南北に長く、各地域の独自の生活文化等が確立しているため、地域間での交流が少ないのが現状です。今後は、地域間の連携を深め、人や資源をつないでいくことで、子どもや高齢者等を支える仕組みづくりを進める必要があります。また、100か国の外国籍の方が暮らしておられます。多くの人が互いを尊重し、助け合い、きずなを深めていくことが重要です。

取組項目	区民一人ひとりができること	区民と行政・事業者・大学等が協働ですること	行政（区役所・市役所）がすること
	互いを認め合い、交流を深める。	自由に交流できる平和なまちづくりを進める。	地域間の交流と情報の共有を支援する。
	・左京区に住むすべての人がお互いを認め合いながら、助け合い、交流を深める。	・互いの文化や考え方の違いを認め、自由に交流できる平和なまちづくりを進める。 ・子どもや高齢者を含めてお互いを支える仕組みづくりを進める。	・北部地域の施設と連携し、自然の魅力や課題等を共有し、交流できる機会を提供する。 ・地域間の連携を深め、情報の共有ができるよう、広報の充実を図る。 ・外国籍市民との文化交流を図る。

II 計画期間中の取組状況

1 取組結果

(1) 区民と行政・事業者・大学等が協働ですること

OH27年度中間点検時の地域代表者へのアンケート結果 OH30市協会会長会議での各学区での取組状況評価

- 互いの文化や考え方の違いを認め、自由に交流できる平和なまちづくりを進めている …5.4%
- お互いを支えあう仕組みづくりを進めている …23.6%

	北部	中部北	中部南	南部	区平均
	3.1	3.0	3.1	3.0	3.1

○まちづくり活動支援交付金事業(一例)

- 左京ワンダーランド（左京ワンダーランド実行委員会）（H29～R1）
88店舗が参加するスタンプラリーの実施とマップ作成等により区民の交流を促進
- 地区地域にとらわれず誰でも楽しんでもらえる夏祭り（吉田東通り夜市実行委員会）（H29～R1）
子育て世代の家族や学生、外国人等、飲食や盆踊り等を通して多様な人々の交流を促進
- 食べて話してワクワク3世代 交流深めて孤食・孤立脱却！（Feel at home）（H28～30）
料理教室や畑作業を通して、子ども、親、高齢者の三世代の交流と食育を促進
- 左京みんなが集う広場づくりを広げよう（左京朝カフェ世代間交流グループ）（H28～30）
凧作りや紙ヒコーキ等の昔遊びと、地域の踊りを通して世代間及び留学生の交流を促進

(2) 行政（区役所・市役所）がすること（一例）

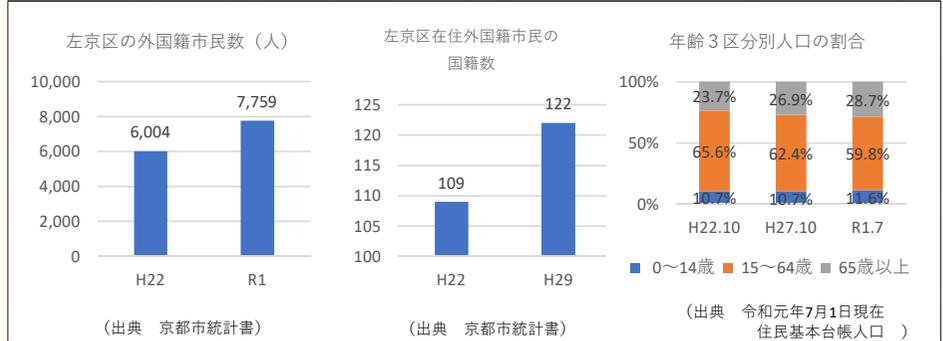
- 左京区民ふれあい事業
- みんなでつくる左京朝カフェ
- 人権文化の構築（5月憲法月間、8月人権強調月間、12月人権月間における取組等）

（以上区役所）

<関連する分野別計画、指針等>

- 京都市国際化推進プラン（平成26年度～令和2年度）（総合企画局）
- 京都市人権文化推進計画（平成27年度～令和6年度）（文化市民局）
- 第4次京都市男女共同参画計画（平成23年度～令和2年度）

2 客観評価（関連指標）



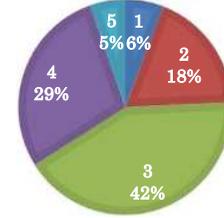
3 区民の実感

(1)「左京はあとふるプラン」区民アンケート結果 (H31.1~3実施)

○地域間や世代間、外国人等、多様な人々がお互いを尊重しながら絆を深め、助け合っている。

（そう思う：5～
そう思わない：1の
5段階評価）

3.1
（平均値）



(2)「左京の魅力」アンケート結果 (H30.5~7実施)

○左京の魅力として、「活気がある・人が元気・つながりがある」ことを挙げた区民の数

21 / 466人 (4.5%)

(3)区民や団体等からの御意見

○左京区のまちについて、良いと思うこと、魅力と思うこと

- ・地域がつながっていると思う。（60代女性）
- ・幅広い年齢層の人が住んでいるので、色々な人々と交流できる。（30代女性）
- ・いろいろな国籍の方がいる。（60代女性）
- ・イベントが多い⇒楽しい、飽きない。（20代女性）
- ・人が助け合うのがよい。（70代女性）
- ・多様性があるのが左京区の良さ。（まちづくり活動支援交付金団体）

○左京のまちについて、課題だと思うこと、より良くしていきたいと思うこと

- ・古くからの住民と新しい住民、学生・商店主等の交流がない。（40代男性、まちづくり活動支援交付金団体）
- ・外国人労働者の方との良好な関係を築くための共生社会に対する意識啓発を期待します。（60代女性）

III 「左京はあとふるプラン」計画期間の総括

(1)評価点

- ・左京朝カフェや区民の主体的な活動、区民ふれあい事業の実施等により、地域間、世代間、多文化の交流が進められている。

(2)今後の課題

- ・外国籍市民が増加する中で、ごみ出しルールや騒音などが問題になっている。生活ルールや文化の違いをお互いに理解しあうことが必要

左京はあとふるプラン（左京区基本計画第2期）総括資料の各項目について

I 「左京区はあとふるプラン」に掲げた取組項目

現計画の3つの目標と15の取組分野について、概要及び取組項目を記載したもの

II 計画期間中の取組状況

1 取組結果

(1) 区民と行政・事業者・大学等が協働ですること

○平成27年度中間点検時の地域の代表者へのアンケート結果

平成27年度に実施した現計画の進捗状況の中間点検の際の地域代表者（各学区市協会長や各種団体の長等）へのアンケートの結果（主なもの）を掲載したもの。

○平成30年度市協会長会議での各学区での取組状況評価結果

市政協力委員連絡協議会会長会にて、基本計画の取組項目のうち、「区民と行政・事業者・大学等が協働ですること」15項目につき、4つの地域ブロック（北部、中部北、中部南、南部）ごとの取組状況について5段階評価（最高5点、最低1点）していただいたもの

○まちづくり活動支援交付金事業

平成27～30年度の左京区まちづくり活動支援交付金の交付団体が実施した主な事業について掲載したもの（総事業件数 116件（27年度25件、28年度30件、29年度31件、30年度30件））

(2) 行政（区役所・市役所）がすること

○各局等の左京区内での実施事業の進捗状況把握

平成28年度実績まで各局等に照会していた「左京区運営方針」について、平成29、30年度の取組実績（新規事業含む）を各局等に照会したもの

2 客観評価（関連指標）

区別集計可能な指標から15の分野の評価に関連する抽出したもの

3 区民の実感

(1) 区民アンケート結果

左京区在住の方を対象に、15の分野について「そう思う」～「そう思わない」まで5段階（最高5点、最低1点）で、実感を尋ねたアンケートを集計したもの

ア 実施時期 平成31年1～3月

イ 回答数 221件

ウ 対象 左京区在住の方（年齢・性別・国籍は問わない。）

エ 実施方法 左京区ホームページへのアンケートフォームの掲載及び市民しんぶん左京区版での周知、左京区総合庁舎において用紙及び回収箱の設置、区内各所での配布・回収又は聞き取り調査等

(2) 「左京の魅力」アンケート結果

左京区在住・通勤・通学されている方や、左京区を訪れた方を対象に、「左京の魅力」について、自由に記述していただいたご意見を整理して集計したもの

ア 実施時期 平成30年5～7月

イ 回答数 947件

ウ 対象 左京区在住・通勤・通学の方や、左京区を訪れた方（年齢・性別・国籍は問わない。）

エ 実施方法 左京区ホームページへのアンケートフォームの掲載及び市民しんぶん左京区版での周知、左京区総合庁舎において用紙及び回収箱の設置、区内各所での配布・回収又は聞き取り調査等

(3) 区民や団体からの御意見

上記(1)(2)のアンケートの自由記述欄や、まちづくり活動交付金団体への意見聴取で得た御意見から、分野ごとに主な御意見を記載したもの

Ⅲ 「左京はあとふるプラン」計画期間の総括(案)

上記の取組状況の実績や評価、区民アンケートを基に、現計画の評価点や今後の課題、次期計画に向けて必要な取組等について、事務局で案をまとめたもの